

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 9月 20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100249		
法人名	社会福祉法人三篠会		
事業所名	グループホーム白木の郷		
所在地	広島市安佐北区白木町小越10230番地 (電話) 082-828-0123		
自己評価作成日	平成30年8月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100249-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年9月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・地域の行事や地域のサロン、認知症カフェに出向いたり、畑仕事を一緒に行い、交流を深めている。また、地域の方を施設へ招待し、地域交流会を行っている。・運営推進会議へ参加しやすくするために、会議の名称を「ひだまり会」に変更し、それに伴って、内容も変更した。地域の方や家族の方を対象に、食事会や認知症についての勉強会、そうめん流し、災害時の避難訓練を一緒に行い、当施設のことを知ってもらうきっかけを作っている。また、食事会や行事を通じて、地域の方と家族の方の交流を深めるような取り組みを行っている。・入所待機者に向けて、地域交流会とひだまりの会へ招待している。入所前から関係作りや施設の雰囲気を知ってもらうことで、環境の変化による精神的な負担を軽減している。
--

<p>グループホーム白木の郷は運営母体が社会福祉法人「三篠会」である。同事業所は運営推進会議を通して地域交流がしっかり行われている。併設されている介護老人保健施設や障害者支援施設等より、様々なアドバイス等行ってもらい利点がある。医療関係も日頃からしっかり連携し安心が担保されている。更に災害時も地域に協力を求めるのではなく、地域に何が出来るかを考え、例えば一時避難場所の提供をする等、併設の施設と共に貢献している。職員は利用者に対して真摯に支援に取り組んでおり、利用者本位のサービスを心掛け努力している。その結果利用者は生き生きと暮らしている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、朝礼時に出勤者全員で読み上げることで、意識の向上や共有につとめている。また、その理念を軸にしたケアを行っている。	法人理念の他に、事業所独自の開設時からの目標である「もう一つの家・家族でありたい」を基に支援に取り組んでいる。職員はその人に添ったサービスを心掛け理念を共有し実践に繋げるよう努力されている。また法人の新任・現任（年次別）研修にも参加しながらケアの向上に繋げる努力がされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	併設の施設との合同行事、運営推進会議への地域の方、入所待機者の方の参加、地域交流会の開催、地域の方との外出・地域のサロンへの参加・保育園との交流・認知症カフェへ出向き交流を図っている。	事業所は地域住民から声掛けをしてもらい様々な地域イベントに参加している。ある時は地域住民に呼びかけ「いきいき体操」を開催したり、また近隣の保育園の園児が訪れ、利用者は子供の雑巾を作りプレゼントする等交流し、事業所は地域の一員として交流するよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や敬老会を利用し、食事を一緒にとるなど交流することで、認知症理解の輪を広げている。又、地域の方にも一緒に外出行事に参加してもらうことで、利用者との関係も近くなり、認知症への理解も進んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度開催している。近況報告や事故報告についてなど施設内で起きていることを随時報告していると共に、終了後に各分野の専門による講話(リハビリ体操・認知症についてなど)や食事会、茶話会などを開催し、家族・近隣の方の意見を聞くとともに交流を図り、サービス向上に繋げている。又、参加しやすい会議にするために名称をひだまりの会に変更した。	会議は定期的に行われている。出席者は利用者と家族が中心で、関係者が報告、改善課題等の意見を話し合い、アドバイスをもらいながら、共にサービスの向上に活かす取組みがされている。また会議に出席し易いように、講和・食事会等を実施したり出来るだけ多くの人の参加を呼び掛ける努力がされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	白木地域包括支援センターと情報交換を行い協力関係を築いている。また、運営推進会議に自治会長や民生委員にも来ていただき、密な情報交換を行い協力関係を築いている。	市町の担当者とは議事録の提出等連絡を行っている。また3か月に一度白木町の連携会議に参加する等、市町と協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は日中施錠を行っていない。以前は、利用者の転倒防止のために家族・他職種と協議し、身体拘束を行ったケースがあったが、現在は対象者はいない。今後も身体拘束ゼロを目指し、研修や処遇会議などの場を利用すると共に2か月に1度身体拘束等廃止委員会を行い、職員の意識の統一を図っていく。</p>	<p>身体拘束をしないケアの大切さは職員は把握している。利用者の外出を拒否するのではなく、自由に散歩が楽しめる様しっかりと見守りを行っており、職員は共に散歩をすることで穏やかに暮らせる支援に取り組んでいる。夜間もセンサー等使用せず、見守り重視で、また言葉による拘束にも気配りをしながら支援に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修や処遇会議を通じ、虐待防止の意識を共有している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>施設内外で権利擁護研修など多くの研修を受け、それを元に部署内で、伝達研修や話し合いを行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約は、計画作成担当者が重要事項説明書を用いて説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ひだまりの会を利用し、家族・利用者・地域の方の意見を聞く場を設けるとともに、事務所前に意見箱を設置し、疑問をもったことやおかしいと感じたことには随時指摘を頂き、改善を図っている。</p>	<p>家族から茶話会等穏やかな空気の中で、意見を聞く機会を設けている。事業所は運営推進会議を利用したり、担当者から定期的に手紙や電話等で、身近な出来事を知らせる努力はされており、事業所は家族の意見を反映する努力がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	月に1回スタッフ会議と週1回の処遇会議にて職員間で意見の交換を行っている。	職員からの意見は会議の場のみでは無く、個人面談や様々な場面でしている。また職員から運営に関する要望があれば話し合い、事業所は働きやすい環境を作る為の体制づくりを行い、必要に応じて反映させるよう取り組んでいる。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	半期ごとに個人目標を設定し、上司とその目標についての評価を行っている。その場も、意見交換の場として機能している。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○J T委員会を施設単位で設置している。新任職員に先輩職員がついて業務指導などを行う。また、外部研修に参加し、報告会用紙や会議にて振り返りを行っている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	外部研修などを利用して他事業所との交流をはかっている。法人内での会議などにも参加し意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	入所前に事前面接を行い、在宅での生活や施設であれば施設での生活について把握している。また、困り事や不安なことがあるか傾聴するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前に事前面接を行うことにより、在宅での苦勞やこれから入所に向けての不安などを傾聴し、その気持ちを共有するようにしている。また、運営推進会議や外出行事にも参加のお願いをして関係を築くように努めている。また、入所待機をしている間にも、地域交流会やひだまりの会に招待することで、入所前から利用者・家族との関係づくりを行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご本人様とご家族様の意見・要望を聞きながら各専門職が連携して支援を行っている。特に初期は新しい環境に馴染めないでいる方が多いため、様子観察や声掛けに力を入れ、安心できるように配慮したケアに努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人様のペースを尊重することを第一に自由に過ごせるように配慮している。また、共同生活を行うことで信頼関係を築いている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族と日帰り旅行に行ったり、各施設ごとの行事に参加していただき、家族間の関係が継続するような支援をしている。また、年賀状など、季節の節目の手紙を利用者様が家族へ送っている。病院受診なども家族に付き添っていただくように呼びかけている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご利用者様のほとんどが白木町の方であるため、地域の方と一緒に敬老会を行ったり、地域の祭りなどにも参加させて頂いている。また、ふらっと外出を増やすことにより、地域に出る機会を増やし関係継続に努めている。</p>	<p>職員は、利用者の生活歴を把握し、また毎日の生活を通して、本人が好きなこと嫌いなことを把握し関係継続の支援に努めている。例えば近隣の馴染みになった方へ利用者が年賀状を出したり、地域住民に車イスの使い方を職員が教える等、繋がる努力がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事全般、役割をもって助け合いながら生活を送って頂いている。利用者同士で声をかけあいながら過ごされている。また、レクリエーションも頻繁に行い、楽しく過ごされている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	GHでの対応が難しくなり、契約を終了した方でもご要望があれば相談に応じ退所先の手配などを行う。また、併設施設に転所するケースも多く、持続した支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、ご利用者様の気づきや変化について共有することに努め、週に一度の処遇会議にて全体で協議し個別ケアについて話し合いを行い、ケアについての変更や改善を行っている。	平素より家族と連携を取り、出来る限り思いや暮らし方が実現出来る様支援に取り組んでいる。利用者からの希望の把握が困難な場合、職員は家族から話を聞き、話し合い検討を重ね、希望に応えられるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接にて生活歴を把握するように努めている。また、ご家族様に居室の馴染みのものがあれば持ってきて頂くようお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	併設事業所兼務の看護師と主治医と情報を共有しながら体調管理を行っている。一人ひとりに関わりながら、気づきがあればその都度職員間で話すとともに、記録をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人のニーズや問題点を処遇会議にて話し、家族や関係者（主治医・看護師）の意見を取り入れ介護計画、書類作成、などを日々の記録でチェックを行っている。</p>	<p>モニタリングは半年に1回本人、家族の意見が核となり、必要な関係者が現状に即した計画を作成している。又、カンファレンスを行い、状態の変化がある場合は、評価、見直しを行い介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>各々に個人記録を作成している。業務日誌や連絡帳も活用しながら情報共有を行い、日々のケアへとつなげている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者様の各地域のお祭りに参加したり、利用者様の趣味に合わせた地域サークルへの参加をしたり、柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>個々の生活歴や特技・趣味を把握し、公民館のクラブ活動にも参加している。他にも、農業に携わっていた方も多く、GHの畑作りなども手伝ってもらったり、地域の方の畑作りにも参加させて頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人、家族様の希望にできるだけ添えるように支援している。病状に合わせ医療機関と連携をとっている。</p>	<p>事業所は協力医を始め、他の医療機関ともしっかり連携がとれており、有事には24時間オンコールで対応している。平素の服薬は薬剤師が訪問し管理を行っている。また利用者や家族の希望で入所前より馴染みのあるかかりつけ医に通院する事もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	併設事業所との兼務をしている看護師と情報を共有しながら体調管理を行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院された場合には、ご家族様に状態確認の電話を差し上げたり、医療機関と連携をとるように努めている。退院後は、入所調整を速やかに行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	ターミナルケアは行っていない。重度化した場合には、併設事業所に転所して頂くか、他医療機関・施設を紹介を行っている。	入所時に家族等に、終末期ケアは行わない方針を説明し同意を得ている。重度化した場合は改めて家族と話し合い、早い段階で他の施設又は医療機関を紹介し、今後の方針を家族と共有しながら支援する体制がある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	施設内研修や外部研修を通じて、急変時や事故発生時の対応について学ぶ場を設けている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年に2回の消防・避難訓練を行っている。そのうちの1回は、地域の方にも参加して頂き、火災時の避難誘導のシミュレーションを実施している。また、土砂災害についての避難マップを用いて、消防署の職員による講話も行っている。8月6日の豪雨災害の際にも、地域の方が白木の郷に避難された。	事業所は地域の一時避難場所としての受け入れ体制がある。年2回の消防訓練は色いろなパターンを想定し行っており、消防署は見回りも行い指導している。備蓄は併設の施設が確保している。また職員は火災・風水害等の訓練後に研修も受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排せつのケアなどの日常的なケアや、言葉かけ等を心がけプライバシー保護に努めている。また、会議時に接遇や言葉かけについての話し合いをしている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、職員は情報を共有している。例えば平素の言葉かけにも心配りを行い、利用者一人ひとりの人格を守る等対応している。職員は接遇、権利関係等の研修や話し合いを行い、支援に繋げるよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るだけご本人様が自分で決定して頂けるように配慮し、コミュニケーションを図るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人様のペースを尊重することを心がけ、ご本人様の意志を尊重するように努めている。たとえば、その日のペース、状態、希望に応じて食事時間を前後したり、買い物に行きたいとの希望があればその都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に1回の訪問理容や、希望によっては外部の店舗に出向くことや、希望の方にはマニキュアを塗ったり、化粧をしている。男性の方もひげそりなどの声かけを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本的には、厨房で作ったものを利用者の方と一緒に盛り付け配膳を行っている。月に一度は利用者様と買い物から料理まで一緒に行っている。また、敷地内の畑でできた野菜を収穫し、一緒に料理している。時には近隣の飲食店で食事などもしている。	日常の食事は併設の厨房で作られ、盛り付けは職員と共に行っている。月に1～2回みんなで献立を考え手作りを楽しんでいる。テーブルの配置や高さ等も配慮されている。時には外食に出掛け、好みの食事や甘いものを楽しみ、職員は工夫しながら変化に富んだ食事を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>医師や施設の管理栄養士と連携をとり、個々に応じ糖尿食や減塩食など栄養バランスがとれた食事を提供している。毎日決まった飲み物ではなく、好みの飲み物を提供し、水分量を確保できるようにしている。また、水分補給の難しい方には、サポートゼリーを提供し、一人一人に応じた支援をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>月に2度訪問歯科を利用し、歯科衛生士から口腔ケアの指導・アドバイスをもらい、利用者の様子をみながらケア実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排便チェック表を作成し、個々の排便周期を把握するようにしている。その周期に合わせた、声掛けやトイレ誘導を行っている。また、個々に合わせた排泄用具を使用している。</p>	<p>利用者の排泄パターンを、チェック表等通じて共有し、職員は誘導の機会を把握しながら支援している。更にはその人の残存能力を活かし、その結果リハビリパンツから布パンツへと変更になる等、排泄の自立に向けた支援に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>ラジオ体操や歩行運動、水分補給にも配慮している。適度な運動・水分補給にも配慮していると共に個々によっては、乳酸菌飲料を利用し、予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>順番や日にちは決まっておらず、ご本人様に希望があるか聞いて入浴して頂いている。また、香り付の入浴剤を利用したり、冬至の季節にはゆず湯を楽しんでいただいている。</p>	<p>入浴の頻度は、利用者一人ひとりの暮らし方や希望に合わせた入浴を心掛けている。毎日入浴を希望する利用者には、職員が話し合い夕方の入浴を行う事で、利用者の満足にも繋がっている。入浴環境に於いても痩せている利用者には、浴槽内に背当てクッションを設置する等工夫しながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	居室だけに限らず、玄関前のベン チや畳なども利用して頂いてい る。ご本人様が過ごしやすいス ペースで過ごしていただしてい る。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。</p>	看護師と連携を図り、薬の変更が あった場合は、内服後の日々状 態を報告し情報の共有に努めて いる。職員全員が服薬について 把握するよう薬局と連携を図り ながら、リスト作成し、誤薬、 服薬の忘れがないよう充分に 配慮している。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	趣味や特技を把握し、地域のサー クルに参加したり、個別支援で 外食やドライブを行い、気分転 換をしていただけるように努め ている。施設内では、ご本人様 にあった役割の場を提供してい る。月に一度、生け花も実施し ている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。</p>	誕生日や季節に応じた大型の外 出に、ご家族と一緒に出かけ たり、ご自身の必要な物など を頻りに近隣スーパーへ買い 物へ出かけている。	利用者の希望に添って散歩や買 い物等、出掛けたい場所や目 的を把握し支援に努めている。 事業所は機会があれば家族の 協力の下、家族旅行を計画・ 実施し、好評を得る等して、 外に出掛けられる体制づく りを行いながら支援に繋げて いる。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。</p>	金銭管理ができる利用者が少 なく、施設で立て替えているが 、買い物に行った際には、ご 自身で会計が行えるよう、支 援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族様に協力して頂き、可能な方のみ実施している。正月には、全員がご家族様に年賀状を送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感ある花を飾ったり、みなさんの写真を見て楽しんだりしている。温度・湿度には加湿器を設置し毎朝の掃除の時には換気も行っている。</p>	<p>利用者が集まるリビングは、窓にはペアガラスが使用され、天井高で風通し良く自然を上手く取り入れた造りが感じられる。また、利用者は好みに応じて、冷蔵庫内の自分の食べ物を自由に出し入れしたり、自宅のリビングで過ごしているような暮らし方が感じられる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>畳場所を設置して、一人になれる空間を作っている。また、ソファの位置や状況に合わせて席をかえたりし配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご家族様に協力して頂き、馴染みのもの（絨毯・椅子など）家族写真など置いたりしている。また、その方に合わせて、ベッドの位置を換えたりしている。</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりが大切にしているものを把握している。居室はエアコン、整理タンス、ベッドが備え付けられ、ベッドの位置は利用者一人ひとりの支援の有り方によって、ベッドの向きを工夫し配置されている。また持ち込まれた馴染みの家具が、その人らしい部屋づくりが感じられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>基本的には出来ることは自分でを心がけ、残存機能を維持できるように配慮した支援を行っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム白木の郷

作成日 平成30年10月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		家族への報告・説明不足があり、不安に感じられている	入所者の家族も安心していただけるようにする	細かな報告をしていくとともに、家族へ報告をする話し方や伝達方法についても学習していく。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。